

平成21年度 第7次ハルビン市訪問
甘楽町中学生国際交流研修団報告記



<ソフィア教会>



<太陽島公園>



<太陽島公園>



<太陽島公園>

群馬県甘楽町
財団法人 甘楽町国際交流振興協会



目 次



◇ “国際交流の第一歩”	甘楽町長 茂原 莊 一	…… 1
◇ “報告記発行に寄せて”	(財) 甘楽町国際交流振興協会 長 富岡 古 男	…… 2
◇ 第7次ハルビン市訪問甘楽町中学生国際交流研修団		
	＜名 簿＞	…… 3
	＜受入家庭名簿＞	…… 4
	＜研修団の概要＞	…… 6
	＜研修団報告記＞	…… 22
◇ ハルビン市の概要		…… 42
◇ 歴代研修団		…… 43
◇ 国際交流年表		…… 49



国際交流の第一歩

第7次ハルビン市訪問中学生国際交流研修団員の皆さん、大変お疲れ様でした。全員無事で元気に帰ってくることができ、とてもうれしく思っています。ホームステイ先の家庭での体験や、ハルビン市内・万里の長城・天安門広場の見学など、数多くの楽しい思い出ができたことでしょう。

世界は今、かつて経験したことがないと言われるほどの経済不況となり、世界中の国々が緊急経済対策事業に取り組み、不況からの脱却を図っています。そんな中で経済成長を維持し、今最も世界中の国々から注目されている国が中国です。中学生研修団員の皆さんは、ハルビン市、中国を実際に見てどのように感じたのでしょうか。

私たち日本人が外国の文化や風土に興味があるように、外国人も日本のことにとっても興味を持っています。中学生研修団員の皆さんも、日本の文化や甘楽町の歴史・風土についてホームステイ先の家族から聞かれたのではないのでしょうか。一般的に日本人は「日本のこと」を外国人になかなかうまく説明できないと言われていています。日本の代表的な文化である歌舞伎や能は、多くの人が日常的に接しているわけではないので、伝えることが難しいですが、普段生活している「自分の町」のことは少し勉強すれば説明できると思います。

国際交流の第一歩は「日本を知ること、そして自分の町を知ること」からとよく言われます。国際人とは、自国の文化・伝統について誇りを持って伝えることができる人です。研修団員の皆さんには、今回のホームステイの経験を生かして、今後も「甘楽町の大使」として世界に町の歴史・文化を広く紹介してほしいと考えています。

最後になりますが、ご苦労いただきました江原団長様、通訳の佐俣様、随行職員、また研修団の派遣にあたり多くのご協力をいただきましたすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

2009年12月

甘楽町長 茂原 莊 一



報告記発行に寄せて

“第7次ハルビン市訪問甘楽町中学生国際交流研修団”の皆さんは、多くの関係者のご支援とご協力により、大きな成果をあげて全員無事に帰国されました。

江原団長はじめ随員職員、通訳の皆様には、甘楽町とハルビン市の友好親善交流のため多大なご尽力を賜りましたことにあらためて厚くお礼申し上げます。

研修団員の皆さんは、ハルビン市でのホームスイ生活をはじめ北京での様々な文化遺産やオリンピック施設見学など、異国での生活習慣を体験し、歴史や文化に触れられたことは今後の人生にとって大きな財産になることと思います。

今年は新型インフルエンザの流行もあり、ご家族の皆さんは研修期間中のお子さんの体調を大変心配されたことと思いますが、この経験により帰国報告会での一回りも二回りも大きく成長した研修団員たちの姿を見て、「研修団に参加させて良かった。」と実感していることと思います。

この中学生研修団の相互派遣は、今後も続く両市町の友好親善交流の発展と、国際社会に対応できる青少年たちの健全育成に大きく寄与するものであり、これらの交流が強いては世界平和に繋がればと心より願っているところであります。

最後になりましたが、今研修団を派遣するにあたり、ご協力をいただきました関係者の皆様にあらためて厚くお礼申し上げ、報告記発行に寄せての挨拶とさせていただきます。

2009年12月

財団法人甘楽町国際交流振興協会

会 長 富 岡 古 男

《第7次 ハルビン市訪問中学生国際交流研修団員名簿》

No.	役 職	氏 名	性別	摘 要
1	団 長	江 原 宏	男	議会議長
2	随 行 員	佐 藤 芳 雄	男	給食センター所長
3	随 行 員	石 井 和 子	女	住民課税務係補佐
4	通 訳	佐 俣 福 艶	女	

【中学生研修団員】

No.	所 属	氏 名	性別	摘 要
1	1 中 3-1	柳 澤 宏 明	男	
2	1 中 3-1	江 原 花 恋	女	
3	1 中 3-1	栗 原 里 奈	女	
4	1 中 3-1	森 平 千 穂	女	
5	1 中 3-2	富 田 萌	女	
6	1 中 3-3	塚 越 千 夏	女	
7	1 中 2-1	太刀川 茉 佑	女	
8	1 中 2-2	伊 藤 未 夢	女	
9	1 中 2-2	山 本 那 奈	女	
10	1 中 1-3	佐 俣 善 康	男	
11	2 中 2-A	桐 生 小矢加	女	
12	2 中 2-B	田 村 佳奈美	女	
13	2 中 2-B	福 愛 美	女	
14	2 中 2-B	藤 井 柚 衣	女	
15	新島 1-B	田 村 佳 麗	女	

《第7次 ハルビン市訪問中学生国際交流研修団受入家庭名簿》

No.	所 属		氏 名	世帯主	妻	子供	性別	住 所
1	一中	3-1	柳 澤 宏 明	嚴 雲祥	韓 斌	嚴 子迪	男	哈爾濱市道里区一面街138号 金安美豪公寓A11219号
	一中	1-3	佐 俣 善 康					
2	一中	3-1	江 原 花 恋	張 繼鋒	葛 宗蓮	張 新悦	女	哈爾濱市道里区新陽路建議街 1号A棟1单元3003
	一中	3-1	栗 原 里 奈			張 鈺曼琳	女	
3	一中	3-2	富 田 萌	劉 海濤	温 曉玲	劉 辛雨	女	哈爾濱市道外区宏偉路宏偉家園 20号楼5单元701室
	一中	3-3	塚 越 千 夏					
4	一中	3-1	森 平 千 穂	黄 浦江	康 秀娟	黄 仙妮	女	哈爾濱市道外区陽光路17号 北新教育園B3棟1单元802門
	新島	1-B	田 村 佳 麗					
5	一中	2-1	太刀川 茉 佑	王 孟剛	戰 麗	王 吉美	女	哈爾濱市道里区紫園路 9-15号1单元2001
	一中	2-2	伊 藤 未 夢					
	一中	2-2	山 本 那 奈					
6	二中	2-A	桐 生 小矢加	陸 雅峰	馮 妍	陸 秋陽	女	哈爾濱市道里区通達街448号 正陽花園3号楼1单元501室
	二中	2-B	田 村 佳奈美					
7	二中	2-B	福 愛 美	高 洋	鄭 曉旭	高 嘉瑩	女	哈爾濱市道里区中医街35号
	二中	2-B	藤 井 柚 衣					

ホストファミリーの皆さんと思い出の一枚



厳 雲祥さんファミリー
〈柳澤宏明・佐俣善康〉



張 繼鋒さんファミリー
〈江原花恋・栗原里奈〉



劉 海涛さんファミリー
〈富田 萌・塚越千夏〉



黄 浦江さんファミリー
〈森平千穂・田村佳麗〉



王 孟剛さんファミリー
〈太刀川茉佑・伊藤未夢・山本那奈〉



陸 雅峰さんファミリー
〈桐生小矢加・田村佳奈美〉



高 洋さんファミリー
〈福 愛美・藤井柚衣〉

第7次ハルビン市訪問中学生国際交流研修団の概要

- 4月 8日(水) 研修団員募集
- ~5月 7日(木) (応募生徒数15名)
- 5月11日(月) 各中学校より研修団員の推薦
- 5月18日(月) 研修団員選考委員会開催
- 6月 1日(月) 団員決定通知交付
- 6月17日(水) 第1回打合せ会議開催(文化会館大会議室)
- 7月22日(水) 第2回打合せ会議開催(文化会館大会議室)
- 7月29日(水) 団員事前研修会(ら・ら・かんら)
- ~31日(金) 講師:佐俣福艶氏(同行通訳)
- 8月12日(水) 壮行会(役場大会議室)
- 8月12日(火) 第3回打合せ会議開催(壮行会終了後)

【第7次ハルビン市訪問中学生国際交流研修団行程】

- 8月17日(月)
- 6:20 甘楽町役場出発



▲茂原町長から激励の言葉



▲バスに乗り込む子供たち

- 9:30 休憩(関越自動車道:黒崎パーキングエリア)
- 10:15 新潟空港着
- 12:15 新潟空港出発(CZ616便)



▲機内への荷物預け(空港ロビー)



▲いよいよ搭乗開始

- 13:30 ハルビン空港着(現地時間)



▲味はどうか?(機内食)



▲ハルビン空港到着

16:30

教育賓館着

16:30

歓迎式並びにホストファミリーとの対面式



▲教育局長（朱 振徳）歓迎あいさつ



▲団長（江原議長）あいさつ



▲第76中学校長（郝 吉祥）の歓迎あいさつ



▲ホストファミリー代表歓迎あいさつ



▲ホストファミリーの皆さん



▲ホストファミリーの紹介

18:00

歓迎夕食会（教育賓館）



▲朱 振徳局長（左）



▲李さんと郝さん（左から2番目より）

○ 8月18日(火)



▲ハルビン市の朝(公園で太極拳)



▲ハルビン市の朝市



▲朝市の屋台



▲ハルビン市の朝市

8:40 教育賓館出発
9:00 学校訪問並びに交流会(第三中学校)



▲第三中学校訪問交流



▲第三中学校訪問交流



▲歓迎の二胡演奏



▲ハルビンの子供たちと一緒に



▲バスケットボール交流



▲「ソーラン節」を披露



▲「世界でひとつだけの花」を手話付で合唱



▲団員代表お礼のあいさつ（柳澤宏明）

12:40 昼食（東方餃子王「愛建店」）



▲お腹が空いたでしょう！たくさん食べてね



▲本場中国の水餃子

13:25 ハルビン市内視察（太陽島公園）



▲太陽島公園にて



▲太陽島公園にて



▲太陽島公園にて



▲太陽島公園にて

16:35 教育賓館着（子供たちは各受入家庭へ）

18:00 夕食会（第3中学校主催：順風料亭）



▲第3中学校長（趙文祥氏）と江原団長



▲第3中学校の先生方（右から谷副主任、白主任）

○ 8月19日（水）

9:00 ハルビン市内視察（極楽寺）



▲極楽寺



▲極楽寺

12:40 昼食（おかゆ専門店「珍粥道」）

13:20 ハルビン市内視察（東方虎園・ハルビン市政府庁舎表敬訪問）



▲東方虎園



▲東方虎園



▲ハルビン市政府庁舎



▲執務室表敬訪問（甄 培徳氏）



▲ハルビン市政府庁舎から眺望



▲ハルビン市政府庁舎から眺望

16:45 教育賓館着（休憩）

18:00 夕食会（第76中学校主催：友誼宮「美食センター」）



▲第7次中学生研修団随員（魏 永利・呉 明）



▲お礼のあいさつ（江原団長）



▲第76中学校の先生方



▲再会を喜び全員で

○ 8月20日(木)

9:00

家庭訪問(7家庭)

※午前は家庭訪問、午後は子供たちと一緒に市内視察



▲劉海濤さん宅(富田 萌・塚越千夏)



▲黄浦江さん宅(森平千穂・田村佳麗)



▲高洋さん宅(福 愛美・藤井柚衣)



▲蔽雲祥さん宅(柳澤宏明・佐俣善康)



▲陸雅峰さん宅(桐生小矢加・田村佳奈美)



▲張繼鋒さん宅(江原花恋・栗原里奈)



▲王孟剛さん宅(太刀川茉佑・伊藤未夢・山本那奈)



▲受入家庭のマンション

13:00 昼食（「老昌春餅」）

13:30 ハルビン市内視察（ソフィア教会・ショッピング）



▲ソフィア教会の前で



▲お土産屋さんでショッピング

16:30 教育賓館着（休憩）

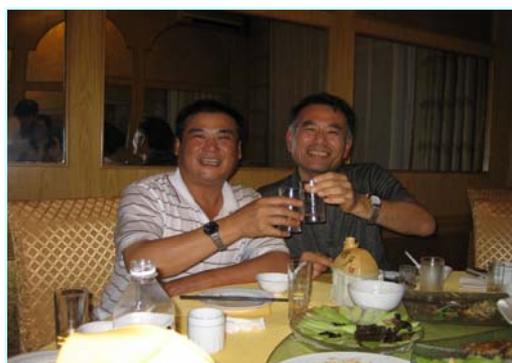
17:30 夕食会（ハルビン市政府主催）



▲「交流の発展を願って」乾杯！



▲甄さん、孫さんと一緒に



▲再会を祝して（孫鳳喜氏）



▲甄さんのご家族と一緒に

19:30 アイスダンスショー観賞



▲氷上で繰り広げられたアクロパティックな演技



▲氷上で繰り広げられたアクロパティックな演技

○ 8月21日(金)

- 6:30 教育賓館出発
- 7:30 ハルビン空港着
- 8:00 ハルビン空港出発(CZ6988便)
- 9:50 北京空港着(現地ガイドと合流)



▲北京空港に到着



▲北京空港にて

12:15 昼食(市内レストラン:刀削麵)



▲北京名物「刀削麵」のつくり方



▲美味しそうな料理がたくさん!

13:20 北京市内視察(天安門広場・紫禁城・故宮博物院)



▲天安門広場



▲紫禁城にて



▲故宮博物院にて



▲景山公園から望む紫禁城全景

16:20 お茶専門店にて



▲中国茶の作法を学習



▲中国茶の味はどうか？

17:00 夕食（市内レストラン：北京ダック）



▲楽しみにしていた「北京ダック」



▲みんな笑顔で大満足！

18:30 ホテル「北京飯店」へ

19:00 自由行動・ショッピング

～

※集合時間を決めて、グループ行動

21:00 （夜の繁華街へ：歩行者天国）



▲ホテルロビーにて



▲ホテルロビーにて



▲夜の繁華街”歩行者天国”にて



▲夜の繁華街”歩行者天国”にて

○ 8月22日(土)

9:00 北京市内視察(北京オリンピック会場・明の十三陵)



▲メイン会場”鳥の巣”をバックに



▲オリンピック公園



▲明の十三陵



▲明の十三陵

13:00 昼食(市内レストラン:飲茶)

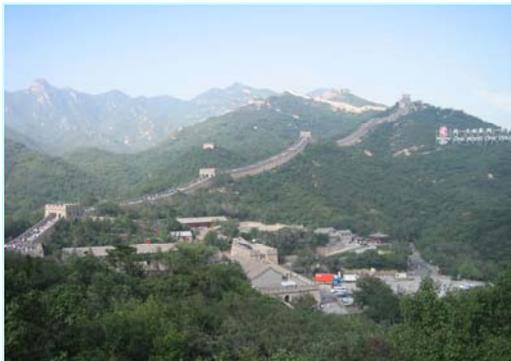


▲様々な飲茶料理がズラリ



▲みんな美味しいね!

15:45 北京市内視察(万里の長城)



▲世界遺産「万里の長城」



▲さあ!頑張って登るぞ



▲想像を超えたスケールにびっくり！



▲どこまで続いているんだろう？



▲ちょっとひと休み



▲疲れた～

19:30 夕食（市内レストラン：上海料理）



▲お腹空いたね（レストラン玄関にて）



▲美味しいね！

○ 8月23日（日）

9:00 北京市内視察（天壇公園）



▲天壇公園にて



▲みんな楽しそうにダンスを踊って

9:50 北京空港着
12:00 北京空港出発（CZ6220便）

14:10 ハルビン空港着
(ハルビン市教育局の李さんが迎えに)



▲ハルビン市に帰ってきた



▲北京視察「楽しかったね！」

14:40 ハルビン空港発
15:30 教育賓館着
(荷物を各部屋に持っていき、少し休憩)
17:00 お別れ夕食会



▲教育局長 朱 振徳 氏 (左端)



▲魏さん、呉さん、李さん (左から)



▲孫 鳳喜さんと江原団長



▲楽しい研修だったね



▲楽しい研修だったね



▲楽しい研修だったね



▲楽しい研修だったね



▲楽しい研修だったね



▲お礼に合唱を披露「世界でひとつだけの花」



▲お礼に踊りを披露「ソーラン節」



▲江原団長が受入家庭にお礼の挨拶



▲江原団長が受入家庭にお礼の挨拶



▲名残惜しいけど最後のお別れ



▲参加者全員で記念撮影

○ 8月24日(月)

5:45 教育賓館発



▲朱 振徳局長も見送りに



▲最後に教育賓館の前で

6:30 ハルビン空港着

8:05 ハルビン空港発 (CZ615便)

11:15 新潟空港着 (日本時間)



▲新潟空港到着ロビー



▲新潟空港到着ロビー



▲無事について良かったね！



▲荷物がたくさんになっちゃった



▲日本の方がちょっと暑いかな



▲もうすぐ甘楽町に帰れるね

12:25 新潟空港発（甘楽町へ）
16:30 甘楽町役場着
（帰国報告）



▲ただいま無事に帰ってきました



▲やっと着いたあ〜



▲江原団長からの報告



▲茂原町長から労いの言葉

16:40 家族との再会



▲研修はどうだった？



▲お帰りなさい！



▲楽しかったね！



▲良い思い出ができました！



大いなる体験

団 長（議会議長）
江 原 宏

第7次ハルビン市訪問中学生国際交流研修団長という責任ある役職を与えられ、中学生15名、随行人員3名、通訳1名の合計19名で8月17日から24日までの8日間にわたって研修を行い、全員無事に帰国することができました。

1日目・朝6時30分役場集合、誰よりも早く行き、団員を待ち受けようと6時前に役場へ着きました。6時を過ぎると、事前研修で顔なじみになった中学生が、一人また一人と家族に付き添われて神妙な顔つきで現れました。

茂原町長はじめ、大勢の関係者の皆様に見送りに来ていただき、あらためて責任の重さを痛感しました。そして、茂原町長より激励の言葉をいただき、バスで一路新潟空港へ向かいました。

中学生にとって初めてのパスポート、初めての海外旅行であり、夢を膨らませてハルビン空港へ向かい、無事に着陸いたしました。

空港では、ハルビン市教育局の手配で、軍隊の方たちが我々の荷物を宿泊所である教育賓館まで届けてくれました。ハルビン市の大地は広く、少し霞がかった状態でした。

空港から市街地まで1時間、バスの車窓から見る景色は、どこまで行っても山がなく、私の想像を絶するものでした。教育賓館では、朱振徳教育局長はじめ、関係者の皆さんがすでに待ち受けられていて、到着したのも束の間、スーツケースを開く間もなく歓迎式が行われました。



▲ 第三中学校訪問にて団長あいさつ

ホストファミリーの中には、甘楽町に訪れホームステイで過ごした子供たちの家庭があり、再会を喜ぶ姿を見てホッといたしました。こうして、中学生たちは4日間のホームステイに入り、随行人員は教育賓館での歓迎夕食会に出席いたしました。

2日目・朝、教育賓館に集合し、ハルビン市立第三中学校を訪問しました。ここは、日本でいえば高校になり、生徒数5千人のハルビン市有数のエリート校です。学校に着くと、外国語学習として日本語を選択している学生が大勢で対応してくれました。



▲ 極楽寺にて（ハルビン市内）

最初は、こちらが中学生で、相手は高校生ということで団員たちは少しうつむき加減でしたが、体育館に入って“ソーラン節”を披露するころには、すっかり打ち解け、見事に踊りあげた演舞はみんなから拍手喝采を浴びていました。

午後は、太陽島公園を見学に行き、その広大さに唖然としました。中国では、結婚記念にプロカメラマンに依頼し、記念撮影を行うのが流行で、公園内では至るところで映画撮影のようなカップルが見受けられました。今回の研修団員は女子生徒が多く、駄目で元々で花嫁さんとの記念撮影をお願いしたところ、快く応じてくれました。将来の自分たちの姿を想像していたのかも知れませんね。その日の夕食会は、第三中学校の皆さんからの招待でした。

3日目・研修団員たちは、終日各受入家庭でそれぞれの計画のもと過ごしました。私たち随行人員は、市内観光を行い、夕食会は第76中学校の皆さんに招待されました。我々は、校長先生はじめ今夏訪町された皆さんとの再会を労し、楽しい雰囲気での食事会でした。

4日目・各ホストファミリー宅への家庭訪問を行いました。広いハルビン市内を76中学校の2人の先生の案内で各家庭へ伺い、団員たちの様子を伺いました。皆さんは、立派なマンションに住んでおり、

行く先々で果物や餃子などのご馳走を用意していただきましたが、時間がなく食べられなくて申し訳ない気持ちで一杯でした。午後は、団員たちも一緒に皆でソフィア教会と防洪記念塔を見学しました。見学後は、団員たちは受入家庭へ戻り、我々随行員は市政府の甄培徳さんの招待の夕食会に招かれました。

5日目・ハルビン空港より国内線で北京へ。ハルビン空港より国内線で北京市へ行き、昼食後、故宮博物院、景山公園を見学しました。ホテルは、憧れの北京飯店でした。



▲ お別れ夕食会にて（手前朱局長）

6日目・オリンピックメイン会場（通称：鳥の巣）明の十三陵、万里の長城等を見学し、あまりの凄さに感動いたしました。

7日目・移動日、ハルビン市へ戻る。お別れ夕食会は、受入家庭を含む関係者全員が出席した送別会でした。皆、思い出に残る一週間だったと思います。ハルビン市関係者の温かいおもてなし、行く先々での心のこもった歓迎に、国際交流の素晴らしさを身に染みて感じました。中学生たちも、第三中学校での披露で自信をつけた“ソーラン節”と全員による“コーラス”を再度披露し、いつまでも別れを惜しんでいました。

最終日・早朝5時になると、教育賓館には朱局長をはじめ、甄さん、孫さんたち大勢の皆さんが見送りに来てくれました。「今度はいつ来てくれますか？」そんな声の中、5時45分、バスに乗りハルビン空港へ向かいました。そして、新潟空港に無事飛行機が着陸すると、誰もが安堵の表情で一杯でした。予定より少し遅れ、4時30分頃役場へ到着しました。玄関には、茂原町長はじめ、大勢の方々にお出迎えをいただき、無事に子供たちを親元に帰すことができ、責任が果たせてホッといたしました。

今回、ハルビン市との中学生研修団派遣交流が成功できたのも、今までご尽力をいただきました皆様

のお陰とっております。最後になりますが、関係者の方々に心から感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。



思い出

一中 3年1組
柳澤宏明

ハルビン空港に着いて、対面式を行う教育賓館にバスで移動中最初に気づいたのは、市街地に近づくにつれ車の数が多くなり、もの凄い勢いでクラクションを鳴らすことで、日本では絶対にあり得ないと思いました。

対面式の時、すごく緊張していました。しかし、ホームステイをお世話になる家族が来たら、なぜか緊張がほぐれました。ジェスチャーや英語で何とか話せることができました。

対面式が終わり、食事に連れて行ってくれたのですが、中国で初めて食べた料理の味は今でも忘れていません。コーラを注文してくれたのですが、運ばれてきたのが缶コーラだったので、ちょっと意外でした。食事をしながら、ホームステイ先のお父さんがいろいろなことを話してくれました。食事の後、家に着くと、床はピカピカでとても綺麗な家でした。



▲ハルビンの友だちと一緒に(ホストファミリー宅)

次の日に、第3中学校を訪問しました。中学校ということなので、自分たちと年が同じくらいかと思っていたのですが、高校生でした。学校はすごく広く、とても豪華な建物でした。ハルビン市内でも、一番大きく、豪華な学校だということを聞いて納得しました。僕たちはそこで、ソーラン節の踊りと世界にひとつだけの花を歌いました。ソーラン節を踊

っている時はとても緊張していて、途中少し間違えてしまったけれど、何とか最後まで踊り切ることができて良かったです。最後に、僕が生徒を代表して挨拶を行いました。今までで、一番上手にできたと思います。



▲ みんなで歌を披露(お別れ夕食会にて)

ホームステイでは、家でいろいろと遊びました。買物をするために、みんなで教育賓館に集合して出掛けましたが、前日にはホームステイの家族と一緒に買物をしてしまったので、あまり買うものがありませんでした。また、前日は少しお腹も痛かったのであまり食べることもできませんでした。けれど、その時はお腹の調子も良くなり、良かったです。

また、他のホームステイの家族と一緒に食事にも出掛けました。見たことがない料理がたくさん出てきましたが、何とか全種類食べることができました。食後は、ホームステイ先の子供たちと佐俣君でふざけたり、ゲームをしたり、いろいろな話をして過ごしました。

この第7次ハルビン市訪問中学生国際交流研修団に参加して、様々な文化や生活習慣に触れることができ、友情や絆を深めることができました。とても、良い経験になりました。



成長の影に

一中 3年1組
江原花恋

飛行機、そして車。たくさんの移動をし、胸に多くの期待と少しの不安を抱えながらやっとたどり着いたハルビン。「これから、どんな一週間が始まるのだろう。」という気持ちを抑え、いよいよホームステ

イ先の家族との対面。お互いに挨拶をして、対面式を終えた後は、それぞれの家へ向かった。

私がお世話になった家族はとても裕福で、31階建てのマンションの30階に住んでいました。部屋の窓から外を見ると、日本の東京のように高いビルが建ち並び、ライトが光り輝いてとても夜景が綺麗でした。

翌朝、昨夜と同じように窓から外を見てみると、昨夜は暗くて分からなかったが、建物と建物の間にあったのは、屋根が剥げていたりしている家屋で、貧しい人たちが住んでいるものでした。私はそれを見て、とても悲しい気持ちになりました。私自身が今いる場所はとても綺麗な場所。しかし、そこから見えるものは美しいものだけでなく、貧富の差を感じるものも見えるという現実が、私にはとても重く感じられました。

初めは、「大丈夫かな？」という不安があったものの、ホストファミリーの皆さんがとても優しく接してくれたので“不安”という言葉すら、私の頭の中から消えていました。



▲ ソフィア教会の前で(ハルビン市内)

ハルビンは、とても有名な観光地がたくさんあり、私もホストファミリーの方たちに、たくさんの場所に連れて行ってもらいました。日本から飛行機で数時間移動しただけなのに、「こんなにも文化が違うのか。」と驚きました。

私が一番驚いたことは、食べ物の違いでした。飲物は、水以外の物がほとんど甘く、辛い物は凄く辛く、始めは口に合いませんでした。しかし、3日・4日と日が経つにつれ次第に慣れてきて、日本食と同じように食べられるようになりました。

ホームステイ先で生活するにあたり、いろいろな気持ちを抱えていた私を、優しく笑顔で迎えてくれた家族の皆さん。私が荷物を整理していると、たくさんのお土産を持たせてくれました。

翌朝、北京に向かう私たちを笑顔で見送ってくれ、最後まで本当の家族のように接してくれたホームステイ先の家族の皆さんには、とても感謝しています。

北京では2日間過ごし、その後ハルビン市に戻り、最後の夜は、みんなでお別れ夕食会をしました



▲ 紫禁城にて(北京市内)

そして翌朝、いよいよ日本へ帰国。お昼に食べた日本食に感動したことは、今でもよく覚えています。

今回のハルビン市訪問中学生国際交流研修団に参加して、とても良い経験になりました。ハルビンでは、ホームステイ先の家族やたくさんの人たちと触れ合ったことで、交流の大切さや温かさを感じることができました。

北京では“万里の長城”に登り、それまで諦めることが当たり前になっていた私が、“万里の長城”に登ることで、最後までやり抜くことの素晴らしさを教えてもらった気がします。

初めての海外、初めての親のいない生活、そんないくつかの初めての、自分自身を成長させたと思います。今回のこの旅の経験を、これからの私の人生で何かに生かせることができたらいいなと思っています。

最後に、研修費用を出してくれた両親、最後まで安全に私を日本に帰してくれた大人の人たち、この研修団派遣に携わった人たちに感謝の気持ちを送ります。「私は、とても良い思い出を作ることができました。本当にありがとうございました。」



中国での生活をして

一中 3年1組

栗原里奈

私は日本を出発する前、楽しみという思いもありましたが、不安な気持ちの方が多かったです。日本を出発し飛行機の中、私たちの周りには日本人がいないといった状況で、「中国で一週間も生活できるかな。」という不安が一層増しました。中国に着いてまず驚いたことは、日本ではありえないほど多くの車のクラクションが鳴っていたことです。その事を通訳の人に聞いたら、「中国ではクラクションを鳴らすことは当たり前で気を付けてという意味だよ。」と教えてくれました。

そして、ホームステイ先の家族との対面式では、ホストファミリーの子供が笑顔で挨拶をしてくれたので、少し不安が解けました。でも、ホームステイの家に着くなり、たくさんの質問を中国語で聞かれたため、何を聞かれているのかも分からず、うなずいたり、首を横に振ったりしたけれども、「はい」や「いいえ」で答える質問ではなかったりして困りました。しかし、質問に答えられなかったことに関わらず、たくさん話しかけてくれたので嬉しかったです。食事は、お母さんの友達の家族と一緒に出掛けお昼を食べたりしました。

北京では、有名な所にたくさん行きました。思っていた以上に、“万里の長城”は長かったし、“リス公園”という所があったことをはじめで知りました。リス公園では、初めはリスがいなかったのですが、どうしてリス公園なのにリスがいなかったのか不思議に思っていました。でも、歩いているうちにリスの姿



▲ 太陽島公園にて(ハルビン市内)

を見ることができたので良かったです。

北京のホテルでは、友達と色々な話しができてりして、ハルビンでの生活と違って周りが中国人ばかりでないことが、少し安心できたような気がしました。北京での2日間は、あつという間に過ぎてしまいました。その後ハルビンに戻り、最後の夜はお世話になったホームステイ先の家族の皆さんと一緒に、お別れ夕食会をしました。お別れ夕食会では、日本で練習をした“ソーラン節”を踊り、“世界でひとつだけの花”を歌いました。ハルビンの皆さんも、ダンスや歌を一緒に歌ってくれて、とてもうれしかったです。



▲故宫博物院(北京市内)

初めて中国に行って、びっくりした事は食べ物でした。私は、中国料理といったら「辛い！」というイメージしかなく、「食べ物はみんな辛いだろうな。」と思っていましたが、それは思い込みでした。中国料理は辛い物だけではなく、甘い物もたくさんありました。それに、かなり臭いのキツイ食べ物もありました。なので、しょっぱい物や日本食がとても食べたくまりました。

この研修では、最初は不安だったこともたくさんあったけれど、その不安はいつの間にか無くなっていて、すべてが楽しいと思うようになっていました。とても良い体験ができて、良かったです。



中国って凄いや！

一中 3年1組
森平千穂

最初、私は不安でいっぱいでした。飛行機に乗って中国に行き、知らない所で一週間を過ごすという

初ものづくしでした。同じアジア諸国ということで食べ物、「食べられるだろうなあ。」とっていました。しかし、中国では思っていた以上に日本と食べ物が変わっていました。

例えば、中国料理は「辛い」というイメージがあると思います。ところが、私が食べた料理は、すごく味が濃い物か、薄い物かと両極端な物でした。でも、とても美味しい料理もたくさんありました。日本で言う「すいとん」「ジャガイモ」「肉料理」はすごく美味しかったです。

私は、ホストファミリーの皆さんに遊園地に連れて行ってもらいました。中国の遊園地は、日本の遊園地と違って、ほとんどのアトラクションが絶叫系でした。バイキングなどは優しい方のアトラクションでした。とにかく怖かったのは、ジェットコースターで、それは足場がなく、足は外に出して固定するというアトラクションでした。コースの中には、一回転する場所が2箇所もあり、とても速度は速く、目が開けていられませんでした。

また、カラオケBOXにも連れて行ってもらいました。「えっ！歌える歌があるの？」と思う人もいるかも知れませんが、中国のカラオケBOXでは、タンバリンが備え付けてあったり、機械のボタンを押すと拍手が起こったり、「ヒュー、ヒュー」と口笛も鳴ります。この面白い機能のおかげで、とても楽しむことができました。

ハルビン市に滞在中、第三中学校（日本の高校）に学校訪問させてもらいました。その生徒は、日本語がペラペラで、いろんなことを話してくれ、お土産までいただきました。

北京では、お茶の作法も体験しました。中国のお茶は、日本のものと違って、湯呑み茶碗ではなく、小さいお猪口のような茶碗にお茶を注いで飲みます。さすが、本場だけあって、とても美味しかったです。



▲天安門広場にて(北京市内)

また、宿泊したホテルでは、みんなでとても楽しい時間を過ごしました。

北京からハルビンに帰ってきて、ホストファミリーの皆さんも全員で、お別れ会を行いました。その席では、お世話になったお礼に“ソーラン節”を踊ったりして、とても良い思い出になりました。



▲オリンピック・スタジアム“鳥の巣”（北京市内）

私のお世話になったホストファミリーの皆さんは、私たちを家族のように優しくしてくれて、とても嬉しかったです。中国料理に慣れなくて、なかなか食べられなくて迷惑をかけてしまったこともあったと思います。

今、「中国に行ってみようかな。」と迷っている人がいたとしたら、ぜひ行ってみてください。貴重な体験をしてください。

私は中国に行って、様々なことを学びました。言葉が通じず、思ったように気持ちが伝えられなくて正直大変なところもありました。しかし、私はもう一度、中国に行きたいと思っています。今回の研修団で、中国に行くことができ、本当に良かったと思います。お世話になりました。



中国へ行って 学んだもの 感じたもの

一中 3年2組
富田 萌

中国へ行くと決まった時、私はとても不安な気持ちでいっぱいでした。中国と言えば、歴史上有名なものがたくさんある。それらを実際に見ることができるといふ嬉しさもありましたが、何よりも安全面で少し不安があり、「無事に帰れるかな？」という気持ちが少しありました。それでも、初めて行く海外

旅行や、先に日本に来て仲良くなった友達に逢うことができる喜びの方が大きく、とても楽しみでした。

初日、ハルビン空港に着いてびっくりしたことがありました。それは、空港にいた人たちに笑顔がなかったことでした。口調が強かったという感じ方もあったかも知れませんが、通じない言葉で言われて、最初の感想は、「中国って怖い…。」でした。「中国の人たちは、みんなこんなのかな？」というような変な思い込みをしてしまいました。

しかし、空港を出て案内をしてくれたハルビンの人たちが、「ようこそ！」と笑顔で声を掛けてくれたので、不安が少しだけ消えました。自然と、自分の顔に笑みが浮かんだのが、その証拠だと思いました。

次にびっくりしたのが、交通状況です。私たちが最初に言ったハルビン市では、日本の交通ルールと違って、走る方向はだけは決まっているけれど、あとは広い道路を自由に走ったり、道の真ん中を人々が歩っていたりしていて、そのせいで車のクラクションが鳴り響くのが当たり前で、とにかく怖かったです。でも、そこで日本と中国の違いを感じるのも楽しかったです。



▲ホストファミリー宅で(塚越千夏さんと一緒に)

中国へ行って印象に残ったこと、楽しかったことは、ホームステイ先での生活や、有名な観光名所を巡ることができたことです。私たちのホストファミリーは、お父さん、お母さん、そして私たちと同じくらいの女の子がいました。お父さんと過ごした時間はちょっと短かったけれど、言葉が通じない私たちを、ジェスチャーを使って笑わせてくれる、とても優しく面白いお父さんでした。そして、女の子は中国語を英語に訳してくれたり、一緒に買物もしてくれたり、トランプで遊んでくれたり、常に私たちのそばにいてくれました。中国語が解らない私たちに、英語で話しかけてくれ、日本より英語教育が発達している中国の人たちの発音は、時にはあまり聞

き取ることができなかつたけれど、そういう時は、私たちが解るまで、ゆっくり話し、絵を描いて説明してくれました。とても親切で、優しい女の子でした。ホストファミリーでの生活は、写真を見ながらお互いの家族の話をした時が、一番楽しかったです。とても温かい家族の皆さんでした。

もう一つ印象に残ったことは、北京に行ったことです。歴史の授業で勉強した“万里の長城”や“天安門広場”、オリンピックのメイン会場になった通称“鳥の巣”など、テレビや写真でしか見たことがなかったものを、実際に自分の目で見られたことは、思った以上に感動しました。中でも、“万里の長城”は、時間が短くて少ししか登ることができませんでしたが、すごく疲れました。でも、上から見た景色は、とてもきれいで、吹く風も気持ち良く、最高でした。歴史で勉強した世界遺産に、実際に触れられたことがすごく嬉しかったです。



▲太陽島公園にて(ハルビン市内)

研修中、体調を崩してしまったり、言葉が通じず困ったり、生活環境の違いの中で、大変だったこともたくさんあったけれど、中国に行くことでいろいろなことを学ぶことができました。普段、当たり前のように使っている言葉が急に使えなくなり、あまり使うことのない英語しか使えないのは、本当に大変でしたが、それ以上に勉強になった気がします。日本と中国の文化の違いを、実際に自分の目で見て、肌で感じ、学ぶことができ本当に感動しました。

国や言葉、環境や文化が違って、笑顔で話せたり、仲良くなれたりできたのは、お互いに心を開くことができたからだと思います。自分の国とは違う国へ行って、強くそう感じました。

この貴重な体験を通して学んだことを、これからの人生に生かすことができるようにしていきたいと思います。両親はじめ、ご協力をいただいた皆さん本当にありがとうございました。



出会い

一中 3年3組
塚越千夏

「行ってきなさい。」

「イヤだ！」

「行けば絶対自分にプラスになることがあるから。」

「何回言われても行かないから。」

というように、最初は中国に全く行く気はありませんでした。それは、正直言って中国に対してあまり良いイメージを持っていなかったからです。

しかし、いつの間にか母が参加申込みを行い、研修団員として参加することになりました。それから中国に行くため、中国語や生活習慣の違いなどを学び、踊りや歌の練習が始まりました。その中で、一番大変だったのは、出し物(踊り)の練習です。私たちは日本人らしく、“ソーラン節”と手話を付けた“世界でひとつだけの花”を歌うことにしました。団員のほとんどが女子ということもあって、先頭に立ってリードする人がいなくて、練習がなかなか思うように進みませんでした。その度に、「あなたたちが進めないでどうするの。最上級生なのだから積極的に進めて。」と促されました。それから、私たち3年生5人が先頭に立ち練習を進め、なんとか形にすることができました。それをきっかけに、他の中学校の友達とも仲良くなれることができました。

8月3日、中国の中学生が甘楽町に訪れました。その子供たちを、ホストファミリーとして受入れを行いました。私は、「大丈夫かな。」と不安な気持ちでいっぱいでした。それは、私の家にホームステイをする子供たちは、2人とも男の子だったからです。



▲とっても美味しいね! 「刀削麺」

対面式が終わり、男の子たちを車に乗せて家に向かう車中は無言、不安は募る一方でした。そして家に着き、そこから一週間は辞書とにらめっこの生活が続きました。最初は恥ずかしくて、なかなか話すことができなかつたけれど、三日、四日と経つにつれ、本当の弟のように冗談を交わせるほどになっていました。本当に嬉しかったです。



▲太陽島公園にて(ハルビン市内)

8月4日、「ら・ら・かんら」で甘楽町の研修団員と交流会を行いました。そこでは、私たちが事前に考えていた“日本の遊び”をいくつか行いました。短時間だったけれど、とても仲良くなることができました。また、私たちが一人一人に付いて、折り紙をやりました。私が付いたのは男の子なのですが、逆に教えてもらうことの方が多く、感心してしまいました。その後の休憩時間で、私が手を洗いに引き戻ってくると、席には飲物が用意されていました。「誰が用意してくれたの？」と聞くと、友達が、「それは、ちーちゃんが教えていた男の子だよ。」と教えてくれたのです。私はその時、「どうしてこんなに気が利くのだろう。初対面なのに優しいな。」「私にはできないだろうな。」と思いました。その優しさをいまでも忘れることはありません。そして、最後にその男の子が英語で、「今度は、僕たちが中国で皆さんを待っているよ。」言ってくれたのです。「何て心が温かいのだろう。」と思いました。

8月10日、時間の経つのは早く、あっという間に涙、涙のお別れとなってしまいました。もっと、甘楽町にいてほしかったです。

8月17日、今度は私たちが中国ハルビン市へ行く時がきました。ハルビンに着くと、ホストファミリーが私たちをととても温かく迎えてくれました。それから中国で過ごした一週間、いろんなものを見て、食べて、たくさんの人たちにと出会い、とても充実した時間を過ごすことができました。中国の歴史的

なものも見ることができ、とても勉強になりました。体調が悪くなったこともあったけれど、一つ一つが忘れられない思い出になりました。

8月24日、帰国。私は、中国に行ってきたことがあります。それは“優しさ”です。日本では人とぶつかったりしたら普通謝りますが、中国では何も言わないのです。けれど、あの男の子のように、優しい心を持っている人たちがいます。だから私は、優しい心を持つ人たちがたくさん増えることを祈っています。

今回の研修に参加して、初めはあまり参加しなかつたけれど、今は心から参加して良かったと思っています。それは、もし参加していなければ、中国の子供たち、ホストファミリーの皆さん、そして研修団員のみんなと出会うことができず、みんなと過ごした楽しいかった思い出も作ることもできなかったからです。

すばらしい交流を…、一年後も、十年後も、ずっとずっと…、続けていきたいです。



世界が広がった 中国研修

一中 2年1組
太刀川 茉 佑

一週間ぶりの再会。私の心の中はワクワク！ドキドキ！でした。なぜかというと、私がホームステイする家庭は、ハルビンの中学生が甘楽町へ研修団員として訪れた際に、私の家で受入れた子供の家だったからです。その家の娘“吉美”は、会った瞬間、笑顔で温かく迎えてくれました。そして、初めての海外、中国、ホームステイ、私にとって人生初めて



▲憧れの“万里の長城”

だらけの生活がスタートしました。

ホームステイした家庭は、26階建マンションの20階にありました。家に入り、まずベランダに出て外の風景を見せてもらいました。そこには、今まで見たこともないような世界が広がっていました。数え切れないほどの住宅や建物。それに比例するように、道路を行き来するたくさんの自動車。また、車のクラクションの音が絶えず、交通の面だけでも日本との違いに驚きました。「日本は交通規制が整っていて、暮らし易い国だなあ。」と感じました。



▲ホストファミリーと一緒に(お別れ夕食会)

吉美とは、トランプや風船を使って遊び、初日から楽しい時を過ごしました。しかし、苦しんだこともありました。それは“異国の言葉”の壁です。私は中国に行く前に、簡単な会話ができるようにと思い、言葉の勉強をしたのですが、吉美のお母さんに中国語で何か尋ねられてもすぐに応答することができず慌ててしまい、ちょっと恥ずかしい気持ちになりました。

言葉は、日常生活において必要不可欠なもので、相手の考えを知る上で一番大事な手段だと思います。だから、もっと会話が成り立っていれば良かったと思いました。しかし、お母さんと吉美は、私たちの困っている姿を見て、筆談してくれました。私は、一生懸命に私たちのことを理解してくれようとしている二人を見て感激しました。このような、素晴らしく温かい心遣いは、本当の家族のように思わせてくれ、強い愛情を感じました。

中国に行く前に心配していた、食事や生活習慣の違いは、徐々に慣れてきました。食事は、外出することが多く、よくバイキングに連れて行ってくれました。また、夕食を終えた後に、ショッピングに行ったりもしました。日本の生活では、夜の街を歩くことはなかなかないので、楽しかったです。

四日目は、吉美のおじさんとおばさんが来て、一

緒に餃子を作りました。吉美のおばさんは、元英語教師で、英語の発音がとても上手でした。おじさんは、たまに日本語で話しかけてくれました。そんな、中国語以外の言葉も使えるお二人は素敵でした。そして、みんなで作った餃子は、とても美味しくできました。本場の味を食べられた気がします。

五日目は、北京に行きました。ハルビンほど車のクラクションの音は聞こえませんでした。夕食に北京ダックを食べとても興奮しました。一度、食べてみたかったので嬉しかったです。

北京二日目は、万里の長城へ行きました。教科書やテレビでしか見たことがなく、いつかは行ってみたいと思っていたので、中学生である今、それを実現することができたので、深く印象に残っています。第一印象は、「あんなに大きいものを、よく造ることができたなあ。」と感じました。それは、想像していた以上のもので、迫力がありました。また、長い歴史の道を辿ると、この長城ができるきっかけやその当時の様子が浮かんできます。実際に私は、友達と一緒に「男坂」に登りました。とても急な階段で、それを登った後に見下ろした景色は最高でした。

今回の研修に参加して、たくさんの建造物や文化を学ぶことができ、あらためて中国の広さやスケールの大きさに驚かされました。私は、ますます世界の歴史に興味を持っていこうと思いました。同じアジアである中国とは、これからも手を差しのべあい、国際交流を図ってほしいと思います。

ホームステイで過ごした時間は、私にとって忘れがたい思い出となりました。ホストファミリーの皆さんには、本当に感謝しています。ありがとうございました。



中国で学んだこと

一中 2年2組

伊藤 未夢

「言葉が通じなくても、気持ちを伝え合うことはできるのだ。」この8日間で感じたことだ。

初めてのホームステイ、生活スタイルが違うことは知っていたが、いざとなるとやはり戸惑った。けれども、ホストファミリーのみんなが優しく教えて

くれたので、その生活スタイルが徐々に当たり前のようになってきた。



▲紫禁城をバックに！（北京市内）

ホストファミリーと過ごした日は、みんなでブドウ狩りへ行った。園内は面積がとても広いので、車での移動だった。野菜は、日本と同じ種類のものもあったが、形と味が違い美味しかった。夕食は、ウェイウェイと一緒にレストランで食べたが、とても美味しかった。

次の日には、チーメイのおばあちゃんとおじいちゃん、それからクーハンが来てくれた。そして、みんなで餃子を作った。私は餃子を生地から作ったことがなかったので、ワクワクした。餃子の皮を、上手に薄く、丸くするには時間がかかってしまったがとても面白かった。チーメイたちの餃子作りはとても手際よく、皮のぼしも上手かった。出来上がった餃子は、とても美味しかった。みんなで作り、みんなで楽しく食べたから、より美味しく感じたのだと思う。

五日目には北京に行った。移動中の飛行機の座席は周りに友達がいなかったなので、キョロキョロしていると、隣の中国人の女の人が話しかけてくれた。英語が通じなかったりすると、お互いノートに書き合ったりして、何とか少し会話ができたので嬉しかった。

北京では、まず天安門広場へ行った。テレビではよく見るが、思っていたより大きく、広くて驚いた。お茶の作法見学では、詳しく説明を聞きながら、中国にしかないお茶を飲ませてもらった。甘くて、いい香りがするお茶、苦いお茶…。どれも全く違うお茶だった。その日の夕食は、やはり北京なので「北京ダック」だったが、とても美味しかった。

そして、楽しみにしていた“万里の長城”。混んでいたの、登る時間が30分しかなかったが、「できるだけ登ってみよう。」ということで、一生懸命登っ

た。あまり上にはいけなかったけれど、すごく気持ちが良く、達成感でいっぱいになった。上でちょっとゆっくりしていたら、時間がなくなってしまい、急いで階段を駆け降りた。だけど、そこは「男坂」だったので、かなり急な階段だったので、少し怖かった。

ハルビンへ帰り、ホストファミリーとのお別れ夕食会で、久しぶりにチーメイと会うことができ嬉しかった。中国の子供たちが、プレゼントとして歌とラテンのダンスを披露してくれた。お返しとして、私たちはソーラン節と世界でひとつだけの花の歌を贈った。みんなから大きな拍手が沸き起こった時は、「夏休みに練習をして、本当に良かった。」とつくづく思った。その後、ホストファミリーが私たちにお土産をくれた。「本当にこれでお別れ。」と思うと悲しくなってきた。何もお返しを用意していなかったので、申し訳ない気持ちになった。

お別れ夕食会が終わり、ホストファミリーのみんなが帰る時、抱き合って「バイバイ。」と言って別れた。今になって、「もっと、おしゃべりをしたかったなあ。」と思い、少し後悔している。本当にホストファミリーの人たちには感謝している。



▲お茶の作法説明と試飲

この八日間、いろいろなことがあった。実際に中国の文化に触れ、生活環境の違いを体験し、ほとんどのことが初めてだった。

最初は不安だらけで、「言葉が通じるだろうか。」「ちゃんと、馴染めるのだろうか。」と思っていたが、そんな不安はすぐに消えてしまった。それは、中国の方々やホストファミリーのお陰だと思う。人は、「支えながら生きているのだ。」とつくづく思った。それに、「コミュニケーションで一番大切なのは、相手に伝えたいという気持ちだ。」ということを学んだ。

この貴重な体験で学んだことを、これから生かしていきたい。



研修に参加して

一中 2年2組
山本 那奈

中国で言葉や食事の文化を学び、万里の長城などの世界的な観光名所を実際に見てみたいと思い参加したこの交流研修団。楽しみと不安な気持ちを抱きながら出発したハルビン市訪問は、長かったようであつという間に終わってしまいました。しかし、その間に数えきれないほどたくさんの経験をし、一生心に残る良い思い出を作ることができました。

ハルビン市に着き、バスで街中に入った時、私はとても興奮していました。ハルビン市がこんなにも大都市だとは思っていなかったからです。高いビルやマンション、お店などの建物が並び、まるで東京のようでした。道路も広く、車やバス、オートバイ、自転車で溢れかえっていました。日本では考えられないクラクションの音に、私を含め研修団員全員が驚いていたようです。

対面式では緊張していて、そんな驚きも興奮も冷めないままの私たちを、ハルビン市の方々が温かく迎えてくれました。また、夏のハルビンからの研修団で、私の家にホームステイで過ごした子どもが、花束をくれたので感動してしまいました。中国で再会できて、とても嬉しかったです。



▲がんばって！もう一息(万里の長城)

私たちの受入家庭は、26階建ての20階が自宅です。ベランダからはハルビン市全体が見渡せる程でした。家の中もホテルのようで、洋風造りでした。

「本当にここは中国なのかな。」と思ってしまうくらい、不思議な感じがしました。ホームステイをしている時は、受入家庭の子、名前はチーメイ、彼女は

私たちに外でのボール遊びや色々なことを教えてくれました。特に、餃子作りがとても楽しかったです。チーメイのおばあちゃんが教えてくれたので、餃子のヒラヒラしている耳のところが、上手に作れるようになりました。餃子の皮を生地から本格的に作っていたので、びっくりしました。受入家庭の皆さんが本当に優しくしてくださり、すごく良かったなと思います。



▲最後の思い出に(お別れ夕食会)

そして、一番印象に残ったのが北京に行ったことです。待ちに待った“万里の長城”は、想像以上に迫力があり、時間がなかったにもかかわらず、たくさん登ることができました。万里の長城は、「男坂」と「女坂」があり、私たちは傾斜のきつい「男坂」の方を登りましたが、予想以上の急な階段に少し戸惑いました。でも、それを全力で登った時の達成感、言葉にならないくらいでした。また、その時見た上からの景色は、今でも忘れることはありません。「さすが、世界遺産はすごいなあ。」と思いました。緑の山の上を、一本の城が果てしなく続いていると思うと、「もっと先まで行ってみたいなあ。」と感じました。

最後の晩、お別れ夕食会はとても楽しかったけれど、やっぱり半分は寂しかったです。でも、みんなと一緒に写真を撮り、甘楽町の研修団員みんなで“ソーラン節”の踊りを披露できたことは良かったです。練習をした甲斐があり、今までで一番上手にできたと思いました。

まだまだ、たくさん本当に色々なことを経験しました。私は、この研修に参加して、本当に良かったです。貴重な体験ができ、中国そのもののイメージが、ガラッと変わったからです。私を参加させてくださった方々全員に感謝したいです。

これからも、この経験を生かし、もっと色々な人々と交流がしたいと思いました。



中国に行って

一中 1年3組
佐 俣 善 康

僕は、何度か中国に行ったことはあるけど、今回のようなホームステイは初めてだったので、すごく楽しみにしていました。

対面式では、受入家庭の子どもとあまり接することができませんでした。でも、自然と仲良くなり、一緒に遊ぶようになりました。初日の夕食は、とても豪華な“しゃぶしゃぶ”でした。受入家庭のおかあさんが肉をたくさん入れてくれるので、お腹いっぱい食べることができました。ホームステイ滞在中は、買物に行ったり、公園で遊んだり、家ではテレビを見たり、ゲームをして楽しく過ごしました。



▲これからお世話になります(対面式)

家はマンションの13階で、エレベーターがガラス張りだったので、「すごいマンションだなあ。」と思いました。家の中は、思った以上に部屋が広く、テレビも大きかったです。それに、子どもの机にパソコンがあったので、びっくりしました。家族の皆さんが、市内のいろいろな所へ見学に連れて行ってくれたので、とても楽しい日々を過ごしました。

哈尔滨市第三中学校では、学生同士の交流を図ることができました。第三中学校の設備は日本の学校より整っていて、生徒たちも日本語を話したり、楽器を演奏したりして、「すごいなあ。」と思いました。私たちは、訪問のお礼に“ソーラン節を”踊りました。それを見た生徒の皆さんが喜んでくれたので、良かったです。とても、有意義な交流が図れたと思います。

五日目、ハルビン市から北京へ行きました。北京

では、まず“天安門広場”を見学しましたが、面積がとても広くて、大勢の人がいたので驚きました。

その後、今度は“故宮博物院”へ行きました。天安門広場よりもっと広がったので、すごくびっくりしました。そして、その日の夕食は、北京ダックを食べました。目の前で切り分けてくれた北京ダックは、とても美味しかったです。また、宿泊したホテルは、とても高級な感じでした。夜には、マクドナルドに行って見ました。何とか注文ができたので良かったです。ホテルの部屋のテレビを見てみると、日本のアニメが中国語に吹き替えられ放送されていました。ホテル周辺は夜遅くなくても、人で賑わっていました。

六日目、最初に“明の十三陵”へ行きました。皇帝の墓は地下にあり、とても広がったです。その後、今度は“万里の長城”へ行きました。万里の長城は、「男坂」と「女坂」があったので、僕は、男坂を登ってみました。女坂に比べて男坂の方は人が少なく、坂が急でした。駆け上がって見ると、すばらしい景色が広がっていました。山と長城は、ずっと先まで続いていました。帰りの坂を下りる時は、坂の角度が約45度くらいあったので怖かったです。

そして、昼食を食べてからお茶屋さんへ行って、中国のお茶を飲みました。お店の人に、お茶について色々なことを説明してもらい、試飲させてもらいました。お茶には、さまざまな種類があって、甘いお茶から苦いお茶までありました。

その後、今度は北京オリンピックのメイン会場だった、通称“鳥の巣”を見学に行きました。遠くから見てもすごい迫力で、中に入ることはできなかったけど、近くで見ることができて良かったです。また、競技で使用したプール“水立方”も見学しました。北京では、色々な有名な建物などを見学できたので、本当に良かったです。



▲すばらしい！景色だった(万里の長城)

北京からハルビン市へ帰り、その夜にお別れ夕食会をしました。受入家庭の皆さんも一緒に食事をして、食後は家に遊びに行き、近くの公園にも行きました。とても楽しかったです。

日本に帰ってきても、まだ中国にいるような感覚でしたが、交通ルールが守られている様子を見ると「日本にいるんだなあ。」と実感しました。

僕は、この研修で中国の人たちと交流し、生活習慣の違いを知ることができて良かったです。また、中国の有名な建物を見学することができて、すごく良い経験になりました。今回の研修で体験したことを、今後に生かしていきたいです。本当に、良い思い出になりました。



思い出の夏

二中 2年A組
桐生 小矢加

私は今回、第7次ハルビン市訪問甘楽町中学生国際交流研修団に参加しました。初めは、あまり外国に行くという気持ちがなくて、とても軽い気持ちでした。初めて乗った飛行機では、ドキドキとワクワクでいっぱいでしたが、空の上はとても綺麗でした。

ハルビン市に着くと、一気に世界が変わった感じがしました。それは、交通状況の違いです。街中は、車のクラクションの音が響き渡り、バスに乗っていてドキドキでした。

対面式が行われる教育賓館に着くと、ホストファミリーの方々温かく歓迎してくれました。私は、先にハルビンからの研修団員として、我が家にホームステイをした秋陽の家にお世話になりました。

緊張というより、再会の喜びの方が大きかったのですが、その反面食事や生活習慣などの不安や心配は多くありました。秋陽の家の皆さんは、とても親切で、私たちの食事のことなども心配してくれました。夜はトランプをしたり、秋陽の小さい頃の写真を見たりして、楽しく過ごしました。

滞在中、とても良く覚えているのは、チャイナ服を着せてもらったことです。少し大きめでしたが、嬉しかったです。料理では、餃子を作らせてもらいました。日本とはぜんぜん違って、皮から作りまし

た。中身を包むのも難しくて大変でしたが、とても楽しい餃子作りでした。



▲美味しいね！（景山公園）

また、いろいろな所へ連れて行って頂きました。買物は雑貨店やスーパーマーケットに、他に「ぶどう王国」というぶどう園にも行き、たくさんぶどうを食べました。素敵なレストランにも行って、美味しい食べ物をごちそうになりました。

今回のホームステイをお世話になった家は、とても綺麗で大きく、生活はとても快適でした。中国語または英語をもう少し話すことができれば、また違う楽しみ方、楽しさがあったように思いますが、私にとって今回の我が家でのホームステイの受入れ、ハルビン市訪問中学生研修団への参加は、どちらも良い経験になりました。

研修の中では、ハルビンから北京にも行きました。北京はとても賑やかで、北京オリンピックのメインスタジアム「鳥の巣」は、とても大きかったです。写真やテレビでしか見たことがなかったので、目の前にした時は、とてもびっくりしました。

そして、私が一番楽しみにしていた“万里の長城”は、とても綺麗でした。自分がここを歩くのかと思うと、驚きでいっぱいでした。私は、「男坂」という方を登りました。とても急で、少し怖かったけど、友達と随行員の方と一緒に、楽しく登ることができ



▲ちょっと怖かった！（万里の長城）

ました。上はとても良い景色で、みんなと記念写真を撮りました。宿泊したホテルはとても綺麗で、安心して過ごすことができました。

いろいろと大変なこと、楽しいことがありましたが、私にとって良い経験になりました。そして、たくさんのお話を学ぶことができ、とても嬉しく思っています。一生忘れることのできない思い出を作ることができました。ありがとうございました。



忘れられない 楽しい思い出

二中 2年B組
田村 佳奈美

中国という初めての環境で、楽しみというよりも不安な気持ちの方が強かったです。日常生活や食生活の違い、何より言葉が通じないということに、とても戸惑いました。言葉が思うように通じないと、自分の気持ちが表現できず、ホームステイ先の家族の皆さんとコミュニケーションが取れませんでした。ですが、少しずつジェスチャーや英語で会話をしていくにつれ、相手の言いたいことが分かったり、自分自身の気持ちを伝えられたりできるようになりました。「たとえ、言葉が通じなくても、自分の気持ちを表現できる方法はいくらでもある。」と新たな発見をしました。



▲中国に友だちと一緒に餃子作り

もう一つの文化の違いは、やはり食事でした。日本でいう中華料理とは全然違いました。日本の中華料理は、できるだけ日本人の味覚に合うように作ってあるため、私には本場の味は正直、少し抵抗がありました。でも、食べたことない物や苦手なものも少しずつ挑戦すると、前なら全然手を付けなかった

ものも食べられるようになりました。このような体験をすることで、日本に帰ってからの生活に生かせるのではないかと思います。



▲疲れたけど良かったね！(万里の長城)

ハルビンでのホームステイは、慣れないこともあったけど、楽しいこともたくさんありました。一つ目は、友だちができたことです。ホームステイをさせていただいた家族の子どもや、その友だちとも仲良くなれました。みんなで一緒にトランプをしたり、チャイナドレスを着て写真を撮ったり、とても楽しく、充実した時を過ごすことができました。私の中では、このような友だちができたことが、一番嬉しい思い出になりました。

二つ目は、ホストファミリーと一緒に買い物に出かけたことです。そこで、私は中国での買物のやり方を学びました。中国は日本と違って、交渉をすると値段を下げてください。私は、こういう文化の違いにも驚きました。また、物価の低さにも驚き、あらためて日本との違いを感じました。

三つ目は、昼食に手作りの餃子を作ったことです。日本では主に焼餃子ですが、中国では水餃子で、皮も手作りをします。皮は日本のものより厚い生地でした。中身の具を包むのがすごく難しく大変だったけど、ホストファミリーの家族との良い思い出を作ることができました。餃子も自分で作ったと思うと、とても美味しく感じました。

いろいろ不安なこともありましたが、ホストファミリーがとても良い家族で、楽しく充実したホームステイをすることができました。

北京の“故宮博物院”を見学して、中国の歴史にたくさん触れることができました。外見は、いかにも中国といった感じの造りで、中の展示物も歴史を感じさせるものばかりでした。このようなものを、自分の目で見たり、肌で感じたりすることによってより多くの歴史を学んだ気がします。

万里の長城に行った時は、下から見ても分かるほど長くて、大きいので驚きました。世界遺産にはあまり興味がありませんでしたが、初めて目にした時、とても自然が残っていて雄大だったので、心の底から「素晴らしい！」と思いました。

私は、「男坂」を登りました。頂上まではとても行けませんでした。四合目くらいから見た景色はとても美しく、万里の長城の文化を感じました。

この研修に参加するまでは、中国の文化や歴史について考えたこともありませんでしたが、この8日間、中国で過ごただけで、知らなかったたくさんのお話を自ら体験し、学ぶことができました。違う環境で身に付いた知識を生かし、これからの生活に役立てていきたいです。

今年の夏休みは、忘れられない、楽しい思い出を作ることができました。お世話になった皆さんありがとうございました。



中国に行って

二中 2年B組
福 愛 美

私は、中国に行くことになった時、とても不安でした。海外に行くのは初めてで、中国語は分からないし、何か事件に巻き込まれたらどうしようとか、たくさん不安がありました。

特に不安だったのがホームステイです。観光地に行くときは全員一緒に、随行の方もいるから安心だけど、ホームステイでは自分と友達の二人で言葉の通じない人の家に住むからです。

ハルビンに到着して、ホストファミリーと対面し、これからお世話になる家に案内されました。私がホームステイをお世話になった家族は、お父さんとお母さん、私より一つ年下の女の子と大学生のお姉さんの4人家族でした。その日は、家族のみんなにいろいろと質問されたけど、中国語だったので全然分かりませんでした。

でも、日が経つにつれ、言葉は分からないけどジェスチャーや女の子が紙に英語を書いて通訳してくれたので、初日に比べて楽しい時間を過ごせたと思います。ホストファミリーの方々は、私たちを本当

の家族のように、優しく接してくれました。食事に連れて行ってくれたり、一緒に買物に連れて行ってくれたり、過ごしているうちに最初の不安はいつの間にか消えていました。

ホームステイ生活の最初は、「早く朝になって、他の友達に会いたいなあ。」と欲していたけれど、すぐにホストファミリーと一緒に過ごす時間も楽しくなってきました。滞在中に、北京に出発する日などは、とても寂しかったです。



▲オリンピック・スタジアム“鳥の巣”（北京市内）

ホームステイを経験して、自分がひと回り成長できたと思います。知らない家族と食事をしたり、買物に出掛けたりして一緒に時を過ごし、普通では体験できないことを体験できて、本当にうれしく思います。

また、中国のいろいろな所へ行けて、中国の歴史を感じ、本場の中国料理も食べることができました。中国料理は、いろいろな種類があり、日本にもある食材でも味付けが日本と異なっていました。ハルビンのものは甘い味付けが多く、北京のものは辛いものが多かったです。同じ食材でも、「国が違うとこんなに違うのかあ。」と実感することができました。

中国の歴史はとても奥が深く、ガイドさんの説明を聞き、自分が今まで知らなかった歴史を学ぶことができました。また、今までの知識をより深く広めることができ、とても勉強になりました。

故宮博物院では、中国の昔の建物の造りやデザインを間近で見ることができました。私は、今まで色々な建物を見てきましたが、本当にビックリするほど大きく、広大でした。一見同じような建物に見えるけど、よく見るとデザインが少し違っていたり、住んでいる人たちが違っていたり、この建物を造った人たちのこだわりが伝わってきました。

昨年開催された、北京オリンピックのメイン会場通称“鳥の巣”にも行くことができました。テレビ

でしか見たことがなく“鳥の巣”を間近にすると、とても興奮してしまいました。私たちが見学したときは、時間的にまだ開場されていなかったため、中に入ることはできませんでした。実際に中に入って見学をしたかったので非常に残念でした。

北京の色々な場所を見学しましたが、一番思い出に残っているのは“万里の長城”です。万里の長城は、「男坂」と「女坂」があり、私たちは「男坂」を登りました。「男坂」というだけあって、怖いくらいの急な坂でした。

手すりのない階段は、手を地面につけながら登りました。登りながら見る景色は、絶景でした。高く登っていくにつれ、より広い景色を見ることができました。登った坂はとても急で大変だったけど、友達と一緒に頑張って登り、想像以上でとても普段見ることのできない絶景を見ることができ、忘れられない思い出のひとつになりました。



▲忘れられない思い出！（万里の長城）

今回、私は研修団員として中国に行くことができ、本当にうれしく思います。出発前の不安は、日が経つにつれ消えていき、少ない時間でしたが中国を満喫することができました。

また、ホームステイの受入をしてくださった家族の皆さんには、本当に感謝しています。違う国でも、人の優しさや温かさは同じであることを実感できました。

私は、この夏に一生忘れることのできない、素晴らしい思い出を作ることができました。

この体験を、これからの生活に役立てていけたら良いと思います。

両親をはじめ、お世話になりました皆さん、本当にありがとうございました。



うれしい！

新島学園 1年B組

田村 佳麗

私は、中国へ行くのは初めてではありませんでした。だから、今回の研修で見学するところはほとんど行ったことがありました。けれど、初めて体験したことや感じたこともたくさんありました。

それは、ホームステイ先の家族のことです。いつも私のことを気にかけてくれました。お腹がすいているかどうか、疲れていないかなど、ほかにもいろいろなことを心配してくれました。

研修行程では、ハルビンから北京に行くことになっていたのですが、私は体調を崩してしまい北京に行くことができませんでした。その間は、ホストファミリーのお宅にお世話になり、今でも申し訳なく思っています。でも、家族のように接してもらい、本当にうれしかったです。

他にも、中国のデパートにも連れて行ってもらいました。日本では考えられないくらい、安いものが山ほどありました。どれもこれも、見ると全部買いたくなってしまいました。たくさん買ってしまったので、キャリアケースがパンパンになってしまいました。これ以上は入らないくらいになってしまいました。なので、帰りの荷物はとても重く、持ち運びに疲れてしまうほどでした。



▲太陽島公園にて（ハルビン市内）

中国に行って、一番印象に残ったのは料理です。どれもみんな美味しくて、しかもとても安いのです。日本では、安いとあまり美味しくないという印象がありましたが、全部美味しかったです。ホストファミリーにいろいろな店に連れて行ってもらいました。

が、「中国にあるレストランは、どの店も美味しいのではないか。」と思いました。もっとたくさん食べたかったのですが、お腹がもたなくて残念でした。



▲みんなで“手作り餃子”（ホストファミリー宅）

今度中国に行けるのは先になるけれど、中国の子供たちが甘楽町を訪れたときは、ホストファミリーとして迎えられたらと思います。その他、ハルビンでは、太陽島公園見学や第三中学校の訪問なども行いました。私にとって、すべてが良い思い出になりました。近い将来、また中国に行って、もっとたくさんの友達を作りたいです。



貴重な体験

同行通訳

佐 俣 福 艶

8月17日から24日までの8日間、私は通訳として第7次ハルビン市訪問甘楽町中学生国際交流研修団に同行いたしました。

出発の数日前に開かれた壮行会では、多くの関係者が見守る中、団長はじめ中学生団員たちが一人ずつ抱負を述べ、関係者からは激励の言葉をいただきました。出発当日は、早朝にもかかわらず大勢の方々が見送りにきてくださいました。また、帰国の際も多くの方々に出迎えていただきました。このように、ハルビン市との交流が多くの皆様に支えられていることを、大変ありがたく思っております。

今回の研修で、私が何よりも嬉しかったことは、甘楽町の中学生たちが、自分たちで振り付けをした踊りや歌を、事前に何度も下稽古して、中国での交流会本番に心を一つにして、皆さんに披露したことです。甘楽町の中学生たちの踊りや歌のあまりの素

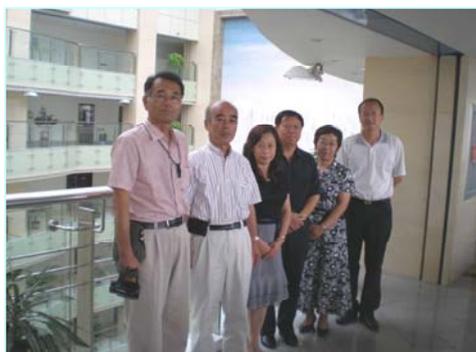
晴らしさに、ハルビンの学生たちは皆感心していました。大きな拍手をもらったことで、中学生たちも自信がついたのではないかと思います。私も、子供たちの実力を実感し、大きなパワーをもらったような気がしています。両市町は、中学生の相互交流訪問の実施により、互いに理解と友情を深めてきたとあらためて感じました。



▲太陽島公園にて（ハルビン市内）

「百聞は一見に如かず」と申しますが、今回の研修を通して団員たちは、中国のスケールの大きさを肌で感じたのではないかと思います。

また、ホームステイや学校訪問などの体験では、日本と異なった生活習慣に触れ、戸惑うことも多かったでしょう。例えば食生活ですが、日本では毎日白いご飯を食べるのは当たり前とされていますが、中国に滞在中は、主食として白いご飯がでたことはほとんどありませんでした。日本との食生活の違い、中国の主食の種類は、バラエティーに富んでいるということを理解し、慣れ親しんだ日本の生活の便利さを、あらためて感じたことでしょう。中学生たちにとって、この体験は中国を理解し、交流を深める第一歩だったと思います。



▲団長らと市政府庁舎訪問

もう一つ私が嬉しく思ったことは、以前甘楽町を訪問されたことのある方々が、甘楽町に対して親近感をもってくださっているということです。公私を

問わず、いろいろな場面で歓迎されているということが伝わってきました。これは、長年にわたる両市町の友好往来と文化交流を通じて育んできた深い友情の成果だと思っております。これからも、これまでの事業の成果を大切に、更なる発展を目指すことを祈っております。

私自身は、今回両市町の友好交流を通じて、お手伝いできたことを、この上ない幸せだと感じております。また、多くの方々と出会い、交流ができたことは、私の宝物になるでしょう。



▲歓迎夕食会(朱 振徳局長と)

今回、私としては最善を尽くしましたが、行き届かない点も多く、皆様のご要望を十分に満たせなかったことを心苦しく思っていますが、今回得た経験をこれから更に生かして参りたいと思っています。

最後に、この研修団派遣に際し、ご協力、ご尽力いただきました関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。謝謝！



研修団に 随行員で参加して

随行員
佐藤 芳雄

全員が無事に、故郷甘楽町へ帰ってくることを随行員の私の決意として、15名の団員と共に中学生国際交流研修団に参加させていただきました。

予期しないことなどもいろいろとありましたが、二度とない貴重な体験をさせていただきました。研修の様子や自分なりに感じたことなど、ごく一部ではありますが報告させていただきます。

8月17日早朝、茂原町長から団員に、出発にあたっての激励の言葉をいただき、関係者が見送る中、

団員共々期待に胸を膨らませ、一路新潟空港からハルビン市へ出発しました。飛行機の搭乗時にも、パスポートの確認があったので、状況が大きく変わっていると感じました。

3時間程でハルビン空港に着き、町と関係の深い市政府の甄さん、孫さん他皆さんが出迎えてくれ、直ちにパトカーの先導で対面式会場の教育賓館へと向かいました。対面式終了後、団員はそれぞれの家庭へと向かいました。

18日。第三中学校との交流会では、バスケットやソーラン節の踊りを披露し、生徒たちとの交流を深めました。その後の太陽島公園の視察では、園内を2万歩も歩き、団員たちも疲れた様子でした。

団員がホームステイをしている3日間、私たち随行員は、ハルビン市内の視察(極楽寺、東北虎園、ソフィア教会、防洪記念塔他)を案内していただきました。また、夜は朱教育局長、李所長、第76中学校長、第三中学校長等、関係者による夕食会を催していただき懇親を深めることができました。

ホストファミリーへの家庭訪問では、ほとんどの家庭が高層マンションに住んでおり、裕福な家庭でした。1家庭あたりの訪問時間が短く、団員たちとゆっくり話しができなかつたのが残念でしたが、それぞれの家庭が団員たちに大変気配りをしていた感じが感じられ、安心しました。



▲市政府庁舎訪問(甄 培徳さんと)

21日。ハルビン市から北京へ2泊3日の行程で視察に出掛けました。北京空港到着後、宿泊ホテルである「北京飯店」へ向かいました。この日は、天安門広場、紫禁城、故宫博物院を歩いて見学しました。隣接する景山公園から見た、眼下に立ち並ぶ建物群は、“中国の歴史の雄大さ”を実感できました。

22日。この日は、明の十三陵、北京オリンピックメイン会場、万里の長城等を見学しました。万里の長城では、団員たちは壮大な城壁の階段を上り、

果てしなく遠くに続く光景を、心に焼きつけたのではないかと思います。また、団員たちがお土産を探すため、「一緒に行きましょう。」と誘われたことは良い思い出です。

ハルビンに滞在中、慣れない異国の食文化や急激な生活環境の変化で、大変だった団員もいたようですが、北京では時間の経過とともに、明るさや安堵感が見えてきたように感じ、ひと安心しました。



▲太陽島公園(ハルビン市内)

23日。ハルビン市へ戻り、帰国前夜の“お別れ夕食会”が開催されました。お別れ夕食会では、対面式の時とは違い、団員たちは受入家庭の皆さんとともに打ち解けた様子で、お互いの表情も明るく、交流の経過が如実に表れていました。団員たちの、受入家庭との別れを惜しむ様子が見えました。

8月24日。甘楽町到着後、茂原町長から「無事に元気で帰ってきてくれてことが一番です。」と団員たちに労いの言葉があり、随行者として自分の目標を達成することができたことを実感しました。

今回、この研修を通じた様々な経験は、中学生団員たちにとって、今後の人生の大きな財産となることと思います。

研修にあたり、甘楽町、ハルビン市、多くの関係者の皆様にお世話になりましたことに、あらためてお礼を申し上げます。



▲団員たちと一緒に(万里の長城)

最後に、いつの日かお世話になったハルビンの方々と再会できることを願い、報告とさせていただきます。ありがとうございました。謝謝！



ハルビン市訪問 研修団に随行して

随行者

石井和子

私たち第7次ハルビン市訪問甘楽町中学生国際交流研修団は、8月17日から24日の8日間、友好親善都市中国ハルビン市を訪問しました。

8月3日から10日の8日間、ハルビン市中学生研修団が甘楽町を訪れ、滞在中に相互の研修団員の交流会を行い、中国の歴史、文化、生活習慣や中国語などの事前研修を経て、期待と不安の中ハルビン市を訪問しました。



▲太陽島公園(ハルビン市内)

団員と過ごした研修期間の中で、印象に残っていることは、学校訪問の際、交流会で披露するために練習を行ってきた“ソーラン節”の踊りを、動作も大きく、堂々と、見事に踊ってくれたことです。

また、お別れ夕食会の時にも、ホストファミリーみんなを前にして、一生懸命、元気良く踊ってくれました。団員たちはみんな元気よく、太陽公園ではハルビン市教育局の李さんの「移動しましょう。」の掛け声のもと、3時間で2万歩を歩き終わりました。北京市の景山公園では、紫禁城見学後にもかかわらず、軽やかに小高い丘を駆け登り、団長にご馳走になったアイスクリームを美味しく食べていたのも印象に残っています。

万里の長城では、見学時間が30分しかありませんでしたが、そんな短い時間の中で、登頂記念品を

ゲットしてきた団員がいたのにはびっくりするともに感激しました。

そして、色々な場面で女の子は積極的にカメラに納まっていたのですが、男の子は恥ずかしいのか、カメラの前から逃げている姿がありました。



▲ホストファミリー家庭訪問

それから、目的を持って研修に参加している団員ですから、中国の食、文化、生活に興味を持って接していました。カップラーメンを買っていたので、お腹が空いたから食べるのかと思っていたら、お土産に持って帰り、日本のカップラーメンと食べ比べをするということでした。出てくる料理の材料や調味料に、何を使っているのかなど、丹念に調べてメモを取っている姿もありました。それぞれに、目的を持って臨んでいる姿があり、感心しました。

そうかと思えば、研修ばかりではなく、お土産を探し購入するときの嬉しそうな姿、おじいちゃんやおばあちゃんにと、心配になるほど気前良くお茶のお土産を買っている優しい姿もありました。

そんな団員と職場の皆さんや家族に背中を押してもらい、研修に随行できたことは大変ラッキーなことでした。広大で、高度成長著しい中国ハルビン市へ、家を離れて元気な中学生と一緒に訪問できたことは、自分自身も大きく成長できたのではないかと思います。



▲万里の長城にて

研修中は普段の生活とは違い、色々なことがありました。自分を見つめ直す良い時間をいただいたように思います。そして、団員と過ごした時間はもちろん、各方面の大人の方々との交流もそれぞれ思い出になりました。いろんな専門店で、餃子・飲茶ほか中国を代表する料理が食べられたこと、お酒の飲み方、乾杯の仕方など、お国柄の違いも教えていただきました。

この研修で、より中国が近くに感じるとともに、あらためて日本を、甘楽町のことを、家族のことを見つめ直すことができた研修だったと思います。

事前研修で、ハルビンにおいても常にリーダーシップを取ってくれた3年生に、大勢の皆さんにお世話になり、無事研修が終了できましたことに感謝し、この経験を今後に生かせたらと思いました。

哈爾濱市の 概要

ハルビン市(哈爾濱市)は、中国最北端に位置する黒龍江省の省都で政治、経済、科学技術、文化、教育の中心です。

市内は、ポプラ、柳などの緑の中に赤レンガ造りの建物が並んでいるのが印象的です。ロシアの影響を受けた建物も多く「中国のモスクワ」とも呼ばれています。またそのほかにも中国式古典建築、ローマ建築などがみられ、近代的な高層ビルが一体となり独特な雰囲気があります。

哈爾濱市の人々にとって最大のイベント「氷灯祭」は大変有名で、氷の芸術を見学するため毎年大勢の国内外の旅行者が哈爾濱市を訪れています。

甘楽町と哈爾濱市教育局では、使節団の相互派遣や小中学生による書画の交換交流も継続して行われています。哈爾濱市の春は5月にやってきて、町中にリラの花が咲きます。夏は日本の避暑地に似た爽やかな気候で、朝夕は上着が必要なほど冷え込むこともあります。夏は日本の避暑地に似た爽やかな気候で、朝夕は上着が必要なほど冷え込むこともあります。秋は短く9月にはズボン下をはき、10月中旬に突然押し寄せる寒波で、緑だった木の葉が一瞬にしてドライフラワーと化します。冬は長く寒く1月は連日 -20°C 以下になり、2月末まで雪が降ります。



▲哈爾濱市街



▲ソフィア教会周辺広場



▲朝市場



▲松花江のほとり



▲兆麟公園

甘 楽 町 国 際 交 流 年 表

1983年(昭和58年)

4月 9日	県主催の「ふるさと巡回サロン」が甘楽町で開催される イタリア女流ジャーナリストのカルラ・ヴァンシオ女史とエツレ・コロー氏(イタリア文化会館)を招き町内5名県内5名の女性との懇談会が開催されその際ヴァンシオ女史よりイタリア・チェルタルド市との姉妹都市提携が提案される チェルタルド市長あてに町長よりメッセージを送る
4月～7月	県(地域振興課)、イタリア文化会館などの側面的協力を得る
7月15日	チェルタルド市長へ姉妹都市関係樹立について文書を送る
7月23日	チェルタルド市長より姉妹都市協定の締結と使節団招待の正式文書到達
7月27日	町議会への姉妹都市協定について経緯を報告、今後の運び方を説明
8月10日	姉妹都市協定書(原案)をチェルタルド市長へ送付
8月29日	姉妹都市協定書原案についての同意文書がチェルタルド市長より到達
9月12日	9月定例議会で姉妹都市協定書議決
10月 1日 ～ 2日	地域文化交流まつりに在日イタリア人7家族31人が来町した際、秋畑地区の民家に分宿し、地元のお祭りや行事に参加し交流を深める
10月19日	第1次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (11名、26日帰国)
10月20日	チェルタルド市プレトリオ宮殿にて友好親善姉妹都市協定書に調印
11月 3日	イタリア展を開催 以後、役場ロビーにて姉妹都市交流の関係資料を展示

1984年(昭和59年)

4月14日	第1次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問 (10名、17日帰国)
8月23日	町企画課長がチェルタルド市を訪問し、ワインの輸入などについて協議

1985年(昭和60年)

3月～	チェルタルド市よりイタリアワインを直輸入し、物産センターにて販売
5月18日	国際交流基金チャリティー事業として「イタリア音楽テノールリサイタル」開催 (小幡小体育館)
6月26日	中学生の文通について、関係者(中学校先生ほか)打合せ 以後、チェルタルド市中学生との文通が始まる
7月29日	イタリア語文化講座を開催(～8月9日)

10月20日	第2次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (12名、30日帰国)
--------	-----------------------------------

1986年(昭和61年)

4月23日	甘楽町国際交流振興協会設立総会が開催される
6月28日	イタリア語文化講座を開催(～7月8日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月18日	第1次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、27日帰国)
8月 4日	第2次チェルタルド市使節団が甘楽町を表敬訪問 (21名、4日間滞在)

1987年(昭和62年)

5月 7日	英会話教室を開催 (～3月31日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
8月 7日	イタリア語文化講座を開催 (～9月29日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
10月18日	第3次チェルタルド市訪問甘楽町使節団出発 チェルタルド市で甘楽町展開催 (11名、28日帰国) ツバキの木100本をチェルタルド市へ贈呈
11月30日	中国内モンゴ歌舞団来町

1988年(昭和63年)

2月12日	財団法人甘楽町国際交流振興協会設立
5月12日	初級英会話教室を開催(～3月30日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
5月13日	イタリア語文化講座を開催(～12月9日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月17日	楽しい英会話教室を開催(～11月15日) (講師:和田穹男)
7月25日	設立記念事業「パスポート取得事業」の実施
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてキャサリン・オースターが着任
8月20日	第2次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、30日帰国)
11月10日	「国際交流のまち」実施市町村として自治省の指定を受ける
11月26日 ～29日	設立記念事業 国交振「台湾ツアー」の実施

1989年(平成元年)

3月	ブドウの木合唱団(東京)がチェルタルド市でコンサート開催
5月 1日	ネヴィオ・ヴァンニチェルタルド市長甘楽町を訪問 (5月5日帰国)
5月11日	初級英会話教室を開催(～3月29日)

	(講師:一ノ瀬俊和氏)
5月15日	中国哈爾濱市へ視察団出発 (3名、22日帰国)
5月19日	イタリア語文化講座を開催 (~1月26日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月24日	楽しい英会話教室を開催(~1月10日) (講師:和田穹男)
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてクリストファー・シロタが着任
10月 8日 ~10日	哈爾濱市児童書画作品展を開催
10月 8日 ~15日	町発足30周年記念事業として、チェルタルド市より絵画を借り受け「ボッカチオ記念絵画展」を開催
10月18日 ~22日	東京都北区において「ボッカチオ記念絵画展」を開催
10月25日	第4次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (20名、11月6日帰国)

1990年(平成2年)

3月	「国際交流アラカルト」「伊語及び英語町紹介パンフレット」を作成
4月 8日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4カ国31名の外国人(東京在住留学生など)が参加
4月13日	イタリア語講座を開催 (~1月25日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月	町内小学生の書画を哈爾濱市へ送付
5月 9日	楽しい英会話教室を開催(~10月3日) (講師:和田穹男)
6月 5日	哈爾濱市へ視察団出発 (8名、11日帰国)
6月21日 ~26日	使節団員として訪伊した滝上祥一郎氏による写真展「中世の余光チェルタルド」が開催される
8月 6日	第3次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問(20名、11日帰国)
8月17日	第3次チェルタルド甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣(25名、内中学生20名、29日帰国)
10月	英会話教室を開催 (~3月14日) (講師:クリストファー・シロタ)
11月	哈爾濱市児童書画作品を展示
11月 8日	哈爾濱市医科大学講師劉蓬海氏研修生として来日
12月15日 ~1月 6日	チェルタルド市で滝上祥一郎氏写真展「中世の余光チェルタルド」が開催される

1991年(平成3年)

2月 1日 ~7日	チェルタルドの額縁展及びファヴィオ・カルヴェッティ氏の個展「ラ・フォルマイル・コロレ」を甘楽町で開催
2月 9日 ~16日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏個展を横浜で開催
2月19日	チェルタルドの額縁展及びファヴィオ・カ

	(講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
4月12日	イタリア語講座開催 (~1月25日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に8カ国25名の外国人(東京在住留学生など)が参加
5月	中国語講座を開催(~9月)
5月16日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ氏甘楽町を訪問 (6日間滞在)
5月18日	哈爾濱市より使節団来町 (5名、10日間滞在)
5月30日 ~6月4日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏個展「インナー・ヴィジョン」を富岡市で開催
7月19日	第5次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (18名、31日帰国)
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてマイケル・ガラントが着任
8月26日	哈爾濱市訪問甘楽町使節団を派遣 (11名、9月3日帰国)
11月22日	町内小学生の書画をチェルタルド市及び哈爾濱市へ送付

1992年(平成4年)

3月27日	甲府市アマチュア合唱団チェルタルド市でコンサート開催
4月 9日	哈爾濱市より使節団来町 (3名、6日間滞在)
4月12日	城下町小幡さくらまつり武者行列に8カ国31名の外国人(東京在住留学生など)が参加
4月17日	イタリア語講座開催 (~1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月26日	第1次チェルタルド市青年使節団来町 (14名、9日間滞在)
8月17日 ~29日	第4次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、内中学生20名、29日帰国)
11月 2日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ一家甘楽町を訪問 (6日間滞在)
11月24日	哈爾濱市より工業研修生13名が来町
12月12日	柳沢正人氏個展「刻(とき)」プレトリオ宮殿で開催

1993年(平成5年)

3月	町内小学生の書画を哈爾濱市へ送付
4月	マイクロバスを哈爾濱市へ贈呈
4月11日	城下町小幡さくらまつり武者行列に6カ国24名の外国人(研修生、町内在住外国人など)が参加
4月14日	町内小学生の書画をチェルタルド市へ送付
4月16日	イタリア語講座開催 (~1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月19日	甘楽町芸能使節団をチェルタルド市へ派遣 夏祭りメルカンティアに出演 (12名、26日帰国)
7月21日	英語指導助手(ALT)としてエリザベス・

～25日	ルヴェッティ氏個展を東京都北区で開催
7月22日	神戸市のコーラスグループ「アンサンブル須磨」メルカンティアに出発
8月 2日	第2次チェルタルド市青年使節団来町 (18名、9日間滞在)
10月	中国語講座開催 (～2月) (講師: 佐俣福艶氏)
10月11日	第6次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (19名、21日帰国)
10月16日	チェルタルド市プレトリオ宮殿にて友好親善姉妹都市協定締結10周年共同宣言書に調印
10月20日	財団法人甘楽町国際交流振興協会からチェルタルド市へ茶室贈呈
10月20日	哈爾濱市より王興仁氏来町
11月24日	哈爾濱市工業研修生及び王興仁氏帰国
11月30日～12月6日	柳沢正人氏個展「刻(とき)」を甘楽町で開催

1994年(平成6年)

1月23日	10周年記念事業として町民文化講座(楽しい旅そして国際交流)の共催 (講師: 女優 中野良子)
2月 3日～4日	10周年記念事業として町内3中学校を巡回してイタリアについての講演会 (講師: 一ノ瀬俊和)
3月	10周年記念事業として記念誌作成『一粒の麦』
4月10日	城下町小幡さくらまつり武者行列に7カ国15名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月15日	イタリア語講座開催 (～1月28日) (講師: 一ノ瀬俊和氏)
5月26日	甘楽町議会哈爾濱市訪問団出発 (17名、6月2日帰国)
8月 1日	第4次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問 (16名、6日間滞在)
8月17日	第5次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、内中学生20名、29日帰国)
10月	町内小学生の書画をチェルタルド市及び哈爾濱市へ送付
11月	第5次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
11月16日	チェルタルド市より中学生による文通の申入
12月11日	文化講演会「豊か心、豊かな家族」の共催 (講師: NHKアナウンサー 広瀬久美子)

1995年(平成7年)

1月12日	チェルタルド市へ甘楽町中学生23名の手紙を送付
1月18日	町内小学生の書画をチェルタルド市及び哈爾濱市へ送付
3月11日	チェルタルド市中学生より19通の手紙

4月14日	ホルトンが着任 イタリア語講座開催 (講師: 一ノ瀬俊和氏)
4月14日～16日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏絵画展のため来日甘楽町表敬訪問
4月16日	城下町小幡さくらまつり武者行列に6カ国17名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 2日～26日	松井千明氏による写真展(Buongioruo Italia イル好中国)が文化会館で開催
10月 1日	哈爾濱市訪問甘楽町使節団を派遣 (17名、8日帰国)
10月19日	町内小学生の書画をチェルタルド市及び哈爾濱市へ送付
10月22日	国際交流祭参加(前橋市)
11月16日～1月29日	哈爾濱市児童・生徒絵画作品展 (甘楽町文化会館)

1996年(平成8年)

4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国12名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月19日	イタリア語講座開催 (～1月) (講師: 町田 亘氏)
5月 8日	哈爾濱市訪問甘楽町使節団を派遣 (6名、16日帰国)
6月14日	チェルタルド市よりジョヴァンニ・ボッカチオの胸像を受贈
7月15日	哈爾濱市使節団20名が来町(児童・生徒10名、教師10名、22日帰国)
7月22日	英語指導助手(ALT)としてクリア・ステンニングが着任
8月16日	第6次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、28日帰国)
12月	町内小学生の書画をチェルタルド市及び哈爾濱市へ送付
12月10日	チェルタルド市長を代表とする使節団が来町(3名、15日帰国)
12月11日	ボッカチオ胸像除幕式

1997年(平成9年)

2月	第6次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
4月13日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4カ国7名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月23日	イタリア語講座開催 (～12月) (講師: 町田 亘氏)
7月	英語指導助手(ALT)としてミッシェル・コーリーが着任
9月22日	第7次チェルタルド市訪問甘楽町使節団をチェルタルド市へ派遣(20名、10月1日帰国)滞在中、ミケーレ・フラミア氏よりフレスコ画を受贈 (甘楽町文化会館)
10月27日	哈爾濱市より行政研修生として孫鳳喜

12月 7日	到達 チェルタルド市名誉市民アラン氏が来町
12月	町内小学生の書画をチェルタルド市及びハルビン市へ送付

1998年(平成10年)

4月12日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国14名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 8日	イタリア語講座開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
8月 3日	ハルビン市使節団が来町 (2名、10日帰国)
8月14日	第7次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、26日帰国)
8月17日	第1次甘楽町中学生国際交流研修団をハルビン市へ派遣(20名、24日帰国)
10月23日	ハルビン市行政研修生孫鳳喜氏帰国

1999年(平成11年)

3月	第7次甘楽町中学生国際交流研修団及び第1次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
3月	町内小学生の書画をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
4月 4日	城下町小幡さくらまつり武者行列に7カ国9名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 7日	イタリア語講座開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
5月24日	第4次ハルビン市訪問甘楽町使節団派遣 (18名、31日帰国)
6月 2日	中国語講座を開催(～11月、10回) (講師:佐俣福艶氏)
7月	英語指導助手(ALT)としてピーター・ブロートンが着任
8月 2日	ハルビン市少年宮芸術団来町 (21名、9日帰国)
8月 3日	第3次チェルタルド市青年使節団来町 (15名、12日帰国)

2000年(平成12年)

3月	町内小学生の書画をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
4月 9日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4カ国13名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月12日	イタリア語講座開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
5月16日	中国語講座を開催(～1月、10回) (講師:佐俣福艶氏)
8月14日	第8次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、26日帰国)
8月18日	第2次甘楽町中学生国際交流研修団

氏が来町(1年間) 2001年(平成13年)

1月	第8次甘楽町中学生国際交流研修団及び第2次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
3月	町内小学生の書画をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
4月 8日	城下町小幡さくらまつり武者行列に3カ国8名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月20日	ハルビン市教育委員会使節団が来町 (4名、21日帰国)
5月11日	イタリア語講座開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
6月 5日	中国語講座を開催(～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
8月 1日	「東洋と西洋 終わり無き美の神秘」～26日 甘楽町絵画展の開催(甘楽町文化会館)
8月	英語指導助手(ALT)としてケンドラ・アン・リッチーが着任
8月 6日	第8次ハルビン市中学生研修団来町 (20名、内中学生14名、13日帰国)
8月25日	テアトロ・キズメット「美女と野獣」甘楽町公演を開催
12月 1日	チェルタルド市茶室「甘楽庵」周辺整備資料展の開催(ギャラリー大手門)

2002年(平成14年)

2月 4日	ハルビン市教育委員会使節団が来町 (4名、5日帰国)
3月	町内小学生の書画をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国9名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 7日	中国語講座を開催(～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月10日	イタリア語講座開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
8月	英語指導助手(ALT)としてアレスター・ジェームス・プリンスが着任
8月17日	第9次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、29日帰国)
8月19日	第3次甘楽町中学生国際交流研修団をハルビン市へ派遣(20名、26日帰国)
9月25日	第8次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (24名、10月2日帰国)
11月27日	ハルビン市放送大学代表団が来町 (7名、28日帰国)
12月19日	ハルビン市教育委員会使節団が来町 (4名、20日帰国)

2003年(平成15年)

1月	第9次甘楽町中学生国際交流研修団及び第3次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
----	--

2月	を哈爾濱市へ派遣(20名、25日帰国) 町内小学生の書画をチエルタルド市 及び哈爾濱市へ送付
4月 6日	城下町小幡さくらまつり武者行列に2 カ国5名の外国人(町内在住外国人 など)が参加
5月13日	中国語講座を開催(～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月16日	イタリア語講座開催(～11月、15回) (講師:町田 亘氏)

2004年(平成16年)

3月	20周年記念事業として記念誌作成 『一粒の麦PART II』
2月 6日	第4次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、13日帰国)
2月24日	チエルタルド市長を代表とする使節団 が来町 (4名、29日帰国)
2月27日	イタリア街道記念除幕、記念植樹、 20周年記念共同宣言書調印式
2月27日	柳沢正人、ファヴィオ・カルヴェッティ 2人展開催
～3月21日	滝上祥一郎氏写真展「中世の余光チエ ルタルド」開催
～3月 7日	松井千明氏写真展「ヴォンジョルノ イタリア」開催
～3月21日	町内小学生の書画をチエルタルド市 及び哈爾濱市へ送付
3月	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月11日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
5月21日	第10次甘楽町中学生国際交流研修団 をチエルタルド市へ派遣 (20名、24日帰国)
8月12日	第4次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(16名、23日帰国)

2005年(平成17年)

1月	第10次甘楽町中学生国際交流研修団 及び第4次甘楽町中学生国際交流研 修団報告記の作成
2月	町内小学生の書画をチエルタルド市 及び哈爾濱市へ送付
5月10日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
8月 1日	第5次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、8日帰国)
8月17日	第4次チエルタルド市青年使節団が来町 (20名、24日帰国)
11月 4日	第9次チエルタルド市訪問甘楽町使節 団を派遣 (20名、12日帰国)

2006年(平成18年)

2月 2日	チエルタルド市及び哈爾濱市絵画等作品 ～19日 展を開催 (文化会館)
2月	町内小学生の書画をチエルタルド市

5月 9日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月 8日	文化交流使節団をチエルタルド市へ派遣 (5名、15日帰国)
8月16日	第11次甘楽町中学生国際交流研修団 をチエルタルド市へ派遣 (20名、28日帰国)
8月18日	第5次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(15名、25日帰国)

2007年(平成19年)

2月 2日	チエルタルド市長を代表とする使節団 が来町 (3名、7日帰国)
5月22日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月25日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:横山修一郎氏)
8月 3日	第6次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、10日帰国)
8月17日	第6次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(15名、24日帰国)
8月17日	町内小学生の書画をチエルタルド市 及び哈爾濱市へ送付
10月 5日	チエルタルド市文化交流使節団来町 (3名、13日帰国)
10月 2日	文化交流展覧会(甘楽町文化会館)
～ 7日	
10月11日	文化交流展覧会(東京都北区「北とぴあ」)
～17日	
10月24日	哈爾濱市教育使節団来町 (6名、26日東京へ)

2008年(平成20年)

2月 8日	ハルビン市「氷まつりツアー」の実施 (26名、11日帰国)
5月20日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月23日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:横山修一郎氏)
8月 1日	第5次チエルタルド市青年使節団が来町 (名、 日帰国)
8月15日	第12次甘楽町中学生国際交流研修団を チエルタルド市へ派遣(20名、25日帰国)
8月15日	町内小中学生の書画をチエルタルド市へ 送付 (総数70点)
11月22日	姉妹都市協定締結25周年 第10次チエルタルド市訪問甘楽町使節団 を派遣 (10名、30日帰国) (チエルタルド市にて記念式典を開催)

2009年(平成21年)

5月19日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
8月 3日	第7次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、10日帰国)
8月17日	第7次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(19名、24日帰国)
8月17日	町内小学生の書画を哈爾濱市へ送付 (総数70点)

及び哈爾濱市へ送付